



9
hina no marebito のまれびと
部 宿

かつて名古屋駅前に稼働率ナンバーワンのホテルがあった。ホテルアソシア名古屋ターミナルだ。駅前再開発のため惜しまれつつ閉鎖したが、このホテルの総支配人、柴田秋雄氏がいかに従業員と顧客から愛されていてかドキュメンタリー映画「日本一幸せな従業員をつくる」（文部科学省選定）で知ることができ。ようやく赤字から黒字に転化したもののが、このホテルが食中毒事件を起こす。だが、営業再開の日にレストランや宿泊の予約が殺到するなど柴田氏の求心力が度々の奇跡を呼んだ。



「いのち」を伝える映画監督 映像作家 岩崎靖子さん (44)

屋のホテルに面白い支配人がいる。行つてみない?」と誘われ軽い気持ちで訪ねたが、「あと10日でこのホテルが消える」と聞き、シャツターガ降りるまでカメラを回し続け、名作が生まれた。配給元のハートオブミラクルは「いのち」をテーマとしたドキュメンタリー映画を多数製作し、企業や主婦等会員の自主上映によりその輪を広げている。2010年2月設立、700会員（うち52団体）、自主上映5365回、鑑賞34万6054人を誇る。

岩崎さんは「日本一幸せな社員をつくる!」以外にも、意識が戻らず一生四肢麻痺と言わながら車椅子での移動可能となつた人物を撮つた「僕のうしろに道はできる」奇跡が奇跡でなくなる日に向かって」（文部科学省特別選定）、農薬・肥料を一切使用しないで増収した「大地の花咲き」（洞爺・佐々木ファーム）喜び”ですべてを繋ぐ、人間の食物の70%を受粉で担うミツバチの絶滅

が人類の危機と警告する「みつばちと地球どわたし、ひとつぶの命に秘められた大きな環のおはなし」等の監督を務めてきた。

「長時間カメラを回し、編集作業も大変な中で監督の編集方法は?」と尋ねると、「コーンティングに学び、事前に答えを持たないでインタビューする。脚本を書かないで撮り続け、最後に映像を見直す際に付箋で大まかな要素を書き出し前後を入れ替える」と付箋活用法を教示する。岩崎さんはこれまで映画監督としてキャリアを積み、「大地の花咲き」で最初にインタビューした17歳年下の中務貴史氏と4年前に結婚。「アラフォーの星」と言われば、翌年長男を自然分娩で出産。淡路島で日の出と共に起居し、日没後は螢光灯を避けて過ごす。中務氏は映画監督としてデビュー、岩崎さんが助監督として支える。宮田運輸ドキュメンタリー映画「愛でいるやん」は11月22日、大阪で初上映予定。